

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

# 25周年記念演奏会

盛岡市民文化ホール大ホール



スペンチャリストを迎え、  
バッハの真髄を求めてうたう

2002 1/13(日)

# ご 挨拶

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

代表 渡 辺 信 之

本日は、盛岡バッハ・カンタータ・フェライン25周年記念演奏会にお出でいただきまして、誠にありがとうございます。

当合唱団が、1977年（昭和52年）2月に産声を上げてから、間もなく四半世紀を迎えようとしています。これもひとえに、やや固めの音楽である「バッハを中心としたドイツ・バロック合唱曲」をうたう合唱団が地元を受け容れられたこと、志を一にする他団体から暖かい応援をいただいたこと、そして幾度となく開催した演奏会へ、たくさんの方に何度もお運びいただいたこと等が相まって、これまで続けて来られたのだと感謝しております。

もちろん、合唱団に集っている仲間が「バッハの教会カンタータの研究および演奏を通して音楽芸術の追求」を行うことは、理屈だけでなく、まず好きだしやってみたいという素朴な動機によることは間違いありません。そしてそれが合唱団の活動の原動力であることも論を待ちません。

合唱団が結成されて、ほどなく佐々木正利先生をお迎えし、現在にいたるまでその類稀な音楽性、指導力により、充実した活動を行うことができたことについては、まさしく幸運以外のなにものでもなく、ここまで育てていただいたことについて感謝の念にたえません。

一昨年秋に当合唱団主催でバッハの「クリスマス・オラトリオ」全曲演奏会を行って以来、この1年余りで、盛岡いのちの電話チャリティーコンサート、有志によるドイツ・ライブツィヒ聖トーマス教会でのオール・バッハ・プログラム、クルト・マズア指揮ロンドンフィルの「第九」への合唱出演と、多様な演奏会にめぐり合える喜びに浸りながら、充実した活動を行ってまいりました。

さらに今秋には、昨年ドイツで共演した新進気鋭のデヴィッド・ティム率いるライブツィヒ・バロックオーケストラをお迎えしての演奏会を予定しております。

今宵は、バッハのカンタータを3曲うたいますが、当合唱団主催のメジャーな演奏会でカンタータを取り上げるのは、今から5年前の20周年記念演奏会以来であり、久々に当合唱団が目指す原点に立ち返って演奏できることに胸を躍らせています。さらに冒頭、ア・カペラでモテットを合唱しますが、作曲者のブラームスは初めて取り組む作曲家であり、25周年を一つの区切りとして、ドイツ宗教音楽のレパートリーを増やしていく意味での新境地と考えております。

オーケストラは、これも5年ぶりとなる東京バッハ・カンタータ・アンサンブルに共演を快諾いただき、普段の練習では伴奏者としての労を担っていただいている劔持先生、さらに全員が合唱団あるいはその関係者であるソリストも合わせ、気心の知れたアットホームなメンバーでの演奏会を企画できた幸せを噛み締めています。

今後とも、盛岡バッハ・カンタータ・フェラインをお引き立ていただきたく、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

# 盛岡バッハ・カンタータ・フェライン25周年記念演奏会

## 《 独 唱 》

(ソプラノ) 藤 崎 美 苗 (カンタータ 150 番, 184 番)

(ソプラノ) 小野寺 貴 子 (カンタータ 39 番)

(アルト) 佐々木 まり子 (カンタータ 39 番, 150 番, 184 番)

(テノール) 佐々木 正 利 (カンタータ 184 番)

(テノール) 及 川 豊 (カンタータ 150 番)

(バ ス) 小 原 浄 二 (カンタータ 39 番, 150 番, 184 番)

## 《 指 揮 》

佐々木 正 利

## 《 管 弦 楽 》

東京バッハ・カンタータ・アンサンブル

## 《 合 唱 》

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

2002. 1. 13. 盛岡市民文化ホール大ホール

主 催 : 盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

後 援 : 岩手県教育委員会 盛岡市教育委員会 (財)盛岡市文化振興事業団  
岩手県合唱連盟 岩手日独協会 NHK盛岡放送局  
IBC岩手放送 エフエム岩手 ラヂオ盛岡 岩手日報社  
読売新聞盛岡支局 朝日新聞盛岡支局 毎日新聞盛岡支局  
産経新聞盛岡支局 河北新報盛岡支社 盛岡タイムス

---

# 演奏曲目

---

## — 第1部 —

ヨハネス・ブラームス

Johannes Brahms

2つのモテット 作品 29

Zwei Motetten Op. 29

1. 救いはわれらより来る  
Nr. 1 Es ist das Heil uns kommen her
2. 神はわがために清き心をつくれ  
Nr. 2 Schaffe in mir Gott ein rein Herz

2つのモテット 作品 74

Zwei Motetten Op. 74

1. いかなれば艱難にある者に光を賜い  
Nr. 1 Warum ist das Licht gegeben dem Mühseligen
2. おお救世主よ、天国を引き開けて  
Nr. 2 O Heiland reiß die Himmel auf

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

Johann Sebastian Bach

カンタータ第 150 番 主よ、われ汝を仰ぎ望む

BWV150 Nach dir, Herr, verlanget mich

(休憩)

## — 第2部 —

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

Johann Sebastian Bach

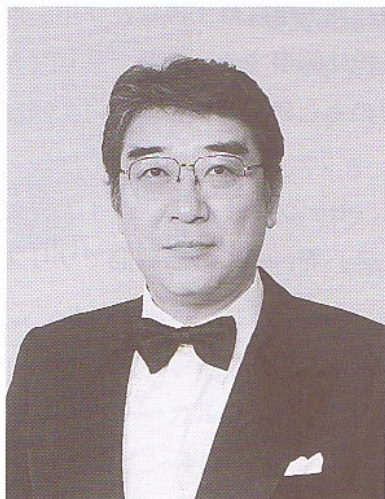
カンタータ第 184 番 待ち望みたる歓びの光ぞ

BWV184 Erwünschtes Freudenlicht

カンタータ第 39 番 飢えたる者にパンを裂き与えよ

BWV 39 Brich dem Huirigen dein Brot

### 佐々木 正利 (指揮・テノール独唱)



東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修士及び博士後期課程修了。須賀靖元（声楽）、服部幸三（音楽学）、小林道夫（演奏法）、森晶彦（発声法）、松本民之助（作曲）、岳藤豪希（宗教音楽）の各氏に師事。1973年にバッハ「クリスマス・オラトリオ」福音史家で楽壇デビュー以来、バッハをはじめとする宗教音楽のスペシャリストとして揺るぎない地位を得ている。

1979年シュトゥットガルトに渡り、L.フィッシャー教授に師事。1980年第6回ライプツィヒ国際バッハ・コンクール声楽部門第5位入賞。同年より1982年までデットモルト北西ドイツ音楽大学に学び、H.クレッチマー教授に師事。在独中は欧州各国の演奏会に招かれ、特に1980年ウィーン楽友協会ホールでのマタイ受難曲では『若き日のP.シュライヤー』と新聞各紙で絶賛される。帰国後もライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ベルリン交響楽団、国立ブカレスト交響楽団、NHK交響楽団等々、

世界、日本の著名なオーケストラのソリストとして度々起用され、K.マズア、H.シュタイン、H.プロムシュテット、小澤征爾、岩城宏之等、世界を代表する数々の指揮者と共演。また世界的宗教音楽の名指揮者であるH.リリング、H.J.ロッチュ、M.コルボ、R.ヤコブス等率いる、シュトゥットガルト・バッハ合奏団、ゲヒンゲン聖歌隊、聖トマス教会聖歌隊、RIAS室内合唱団等の演奏会に度々出演し、高い評価を得ている。特に世界的バッハ指揮者H.ヴィンシャーマン率いるドイツ・バッハゾリステンの演奏会には、ソリストとしてだけでなく、自身が育てた合唱団も度々共演し、その歌唱力、合唱指導力によって絶大な信頼を勝ち得ている。

1985年ザルツブルク音楽祭に招かれ、R.バーダー指揮のモーツァルテウム管弦楽団、ベルリン聖ヘドヴィツヒ聖歌隊とバッハ・マニフィカト、モーツァルト・戴冠ミサを共演、絶賛を博した。在独中はヴェストファーレン州立歌劇場等で「グリゼルダ」のコラード、「フィデリオ」のヤッキーノ、「コシ・ファン・トゥッテ」のフェランド役で出演。現在までリサイタル21回を数え、レコード・CDも多数リリース、またテレビ、FM等にも度々出演している。

1970年東京芸大バッハ・カンタータ・クラブの創設に携わり、多くの後進を育てるとともに指揮者としての活動を開始。以後、約30年にわたって主に宗教曲の演奏に冴えをみせ、そのいずれもが名演の誉れ高い。特に盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団、岡山バッハカンタータ協会等を率いての8度にわたるドイツ等を中心とした欧州公演では、『シュッツ、バッハの世界的担い手』とした最大級の賛辞が新聞各紙に掲載され、1993年のヴィンシャーマンとのマタイ受難曲では『マタイ演奏史上、最も特筆されるべき演奏の一つ』、また1995年のJ.ツィルヒとの天地創造では『音楽と言葉の見事なまでの融合』と、その音楽作りが絶賛された。1987、88年には、リリング音楽監督のバッハ・アカデミーにてTen.マスタークラスの講師を務め、またコダーイ・サマースクールや古楽サマースクール等でも指導講師に招かれるなど、その指導力については世界的に定評がある。

1994年、長年にわたる顕著な演奏・教育の業績に対し、第47回岩手日報文化賞（学芸部門）が贈られ、また2000年8月にはアメリカ・イオンド大学より名誉博士号が授与された。

現在、岩手大学教育学部教授。二期会会員。日本声楽発声学会理事。日本発声指導者協会常任理事。仙台バッハ・アカデミー理事。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン指揮者。仙台宗教音楽合唱団、岡山バッハカンタータ協会、岩手大学合唱団、東北大学混声合唱団各常任指揮者。オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団指揮者。

### 藤崎 美苗 (ソプラノ独唱)



岩手大学教育学部卒業。東京芸術大学音楽学部卒業、現在同大学院修士課程在学中。声楽を佐々木まり子、佐々木正利、瀬山詠子、朝倉蒼生の各氏に師事する。また、東京芸大バッハ・カンタータ・クラブにおいて、小林道夫氏の指導のもと研鑽を積む。第10回友愛ドイツ歌曲コンクールにおいて第2位入賞。

これまでにJ.S.バッハの教会カンタータをはじめとし、モーツァルト「レクイエム」、M.ハイドン「レクイエム」、J.ハイドン「ミサ・プレヴィス」等、多くの宗教曲でソリストを務める。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン会員。

### 小野寺 貴子 (ソプラノ独唱)



県立盛岡北高等学校卒業。岩手大学教育学部中学校教員養成課程音楽科に入学、佐々木正利氏に師事する。同氏の下、盛岡バッハ・カンタータ・フェラインにおいて宗教音楽を学ぶ。1999年同大学院音楽専修に入学。2000年、東京芸術大学大学院に入学、声楽を三林輝夫氏、発声を磯貝静江氏に師事する。また、東京芸大バッハ・カンタータ・クラブ定期演奏会においてソロを務めるなど小林道夫氏の指導の下研鑽を積んでいる。現在修士課程2年在学中。また、01年10月には東京芸術大学第47回オペラ定期演奏会『ドン・ジョバンニ』にツェルリーナ役で出演し好評を博した。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、グルッペ・ベッヒライン会員。東京家政大学「フラウエンコール」、東京外国語大学「ソレイユ」ヴォイストレーナー。

### 佐々木 まり子 (アルト独唱)



東京芸術大学声楽科卒業、同大学院修士課程独唱専攻修了。毎日学生コンクール西日本1位。NHK新人演奏会出演。伊藤亘行、小林道夫、森晶彦の各氏に師事。1980年にデットモルト北西ドイツ音楽大学に留学し、H.クレッチマル、H.クールマン両教授に師事。ドイツ・リート、オラトリオ歌唱法ならびにドイツ語舞台発音法の研鑽を積む。帰国後も、H.ヴィンシャーマンとバッハ「クリスマス・オラトリオ」で共演したのをはじめ、バッハ、ヘンデルのカンタータ、オラトリオ演奏会に多数出演。温かく豊かで深みのある歌唱によって、東京を中心に全国各地で活躍している。1993年9月にはA.ギーベル女史とのメンデルスゾーン「パウロ」に出演、10月にはH.ヴィンシャーマン指揮によるドイツ・バッハゾリステンの「マタイ受難曲」のアルト・ソリストとして高い評価を得た。近年は全日本合唱連盟主催のおかあさんカンタートにて発声講座の講師を務める。また月が丘教会のチャペルコンサートを長年企画、指揮している。現在、女声合唱団・グレイセスもりおか、アンサンブル・コン・フォーコ指揮者。東北大学混声合唱団、岩手大学合唱団、盛岡子供劇団CATSきゃあ各ヴォイス・トレーナー。グルッペ・ベッヒライン会員。

## プロフィール

### 及川 豊 (テノール独唱)



盛岡市出身。岩手大学教育学部中学校教員養成課程音楽科卒業。東京芸術大学声楽科卒業。岩手大学に在学時より盛岡バッハ・カンタータ・フェラインにおいて宗教曲を学ぶ。テノール・パートリーダー、ドイツ演奏旅行ではソリストとしても参加。さらに東京芸大バッハ・カンタータ・クラブにて小林道夫の薫陶を受ける。

シュッツ、シャルパンティエ、バッハ、ヘンデル、モーツァルトなどの宗教曲のソリストとして活躍。また北とぴあ国際音楽祭のバロックオペラや中世ルネサンス音楽のアンサンブルにも意欲的に取り組んでいる。

これまでに、故志田久子、小原一穂、佐々木正利、鈴木寛一の各氏に師事。かすかべ十字架合唱団合唱指揮者。ヴォーカルアンサンブル・カペラ・メンバー。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン会員。グルッペ・ベッヒライン会員。

### 小原 浄二 (バス独唱)



1964年、花巻市生まれ。岩手大学附属小中学校、盛岡三高、岩手大学教育学部音楽科卒業。その後、東京芸術大学声楽科に進学し首席で卒業。松田トシ賞受賞。同大学院修了。

声楽を、森肇子、佐々木正利、伊藤亘行、多田羅迪夫、H.クレッチマールの各氏に師事。岩手大時代は佐々木正利氏のもと盛岡バッハ・カンタータ・フェラインに、東京芸大時代は小林道夫氏のもとバッハ・カンタータ・クラブに所属し研究・演奏を重ねる。その後、主に宗教曲のソリストとして国内外で活躍。'94~'95年ドイツ留学。元バッハ・コレギウム・ジャパン、コーラスマスター及びソリスト。現在、高知バッハカンタータフェライン指揮者。アンサンブル《BWV2001》メンバー。高知大学教育学部助教授。

### 蒲生 克郷 (管弦楽コンサートマスター)



東京芸術大学卒業。1976~78年渡独。ヒルデスハイム市立歌劇場管弦楽団奏者、ヒルデスハイム室内管弦楽団コンサートマスターを務める傍ら、ヴュルツブルク音楽大学にて研鑽を積む。帰国後は室内楽奏者として憩弦楽四重奏団、久合田緑弦楽四重奏団などで活躍する。

現在、東京芸術大学管弦楽研究部講師、及び同部(芸大フィルハーモニア)コンサートマスター、エルデーディ弦楽四重奏団第1ヴァイオリン奏者、アンサンブル of トウキョウメンバー。多久興、海野義雄、ボリス・ゴールドシュタインの各氏に師事。

### 東京バッハ・カンタータ・アンサンブル (管弦楽)

東京芸術大学の学内サークルとして30年来小林道夫氏のもとで活発な活動を続けている団体に「バッハ・カンタータ・クラブ」というのがありますが、そのOBを中心に、卒業後もなおバッハやヘンデル等の器楽曲、宗教音楽の分野に於ける演奏活動を続けようとする有志が集ったのが「東京バッハ・カンタータ・アンサンブル」である。メンバーは各自がそれぞれソリスト、室内楽、オーケストラ等、各方面で活動しているため多少流動的ではあるが、この名称のもとで演奏活動を始めてから既に20年を経て、バッハ、ヘンデルを中心とした

## プロフィール

バロックの器楽曲、宗教音楽の数少ない演奏研究団体として、その様式感にのっとった生き生きとした演奏には定評がある。

過去に於いては、W.ヤコブ、H.ヴィンシャーマン、E.ヴァイアント、H.J.ロッチュ、P.ノイマン、小林道夫、黒岩英臣等、内外の演奏家との共演をはじめ、バッハ合唱団、CMA合唱団等、全国各地の合唱団と共演している。

### 盛岡バッハ・カンタータ・フェライン (合唱)

1977年「カンタータを歌う会」として発足。以来、一貫してJ.S.バッハの作品を中心としたドイツ・バロック合唱曲の研究、演奏を行っている。その演奏が、1991年ドイツにおいて「作品の語感、音、そして精神の完熟」という現地新聞の批評を受けるに至るまでには常任指揮者、佐々木正利のドイツ・バロック音楽に対する卓越した見識に基づく、熱意溢れる指導の積み重ねがあった。佐々木は超一流のエヴァンゲリストとして評価されるその発音、語感、様式感をも一つのライフワークである合唱団の育成に注ぎ込み、その結果「言葉が生きる」とく音楽が生きる」とは歌の世界では同義語である」というフェラインの音楽信条が演奏上の身上となるに至ったのである。

その後、H.ヴィンシャーマン、H.J.ロッチュ、J.ツィルヒ、岩城宏之等、世界的指揮者との共演を重ね、各指揮者より、ドイツ・バロック音楽を音楽的かつ人間的に表現できる合唱団として、熱い評価を得るようになった。この評価は、声の充実を追求する合唱団や、古楽器的な歌唱法を駆使して鮮烈な表現を目指す合唱団に与えられるものとは性格を異にする。暖かい音色を基調としながら、音楽の刻々と変化する様相を、その時々に対応しいニュアンスで大胆かつ繊細に、確信を持って表現しきろうとする、あくまで人間バッハへの共感を基調とする合唱団に対してのものなのである。

その後、H.ヴィンシャーマン、H.J.ロッチュ、J.ツィルヒ、岩城宏之等、世界的指揮者との共演を重ね、各指揮者より、ドイツ・バロック音楽を音楽的かつ人間的に表現できる合唱団として、熱い評価を得るようになった。この評価は、声の充実を追求する合唱団や、古楽器的な歌唱法を駆使して鮮烈な表現を目指す合唱団に与えられるものとは性格を異にする。暖かい音色を基調としながら、音楽の刻々と変化する様相を、その時々に対応しいニュアンスで大胆かつ繊細に、確信を持って表現しきろうとする、あくまで人間バッハへの共感を基調とする合唱団に対してのものなのである。

ミュンヘンのヘラクレスザールでハイドンの「天地創造」を演奏する(ニュルンベルク交響楽団)同じ週に、各地教会でア・カペラの小品を歌う。フェラインは、常に盛岡の教会での練習で培ったトーンを原点として活動してきた。

一昨年11月には、盛岡でH.ヴィンシャーマン指揮のドイツ・バッハゾリステンと、バッハの「クリスマス・オラトリオ」を全曲演奏し絶賛を博した。また昨年10月には、K.マズア指揮ロンドンフィルハーモニー管弦楽団のペーターヴェン「第九交響曲」にパイオニア合唱団と共に出演し、大きな感動を呼んだことは記憶に新しい。

東京バッハ・カンタータ・アンサンブルとの共演は、97年のフェライン20周年記念演奏会以来5年ぶり。

### 劔持 清之 (オルガン)



国立音楽大学卒業。伴奏ピアニストとして演奏活動を始め、国立音楽大学教授佐藤峰子氏主催重唱研究会専属伴奏者、同氏の演奏会での伴奏を務め研鑽を積む。バンセ・ア・ラ・ミュージック社の声楽教材「コンコーネ 50 番」伴奏テープ録音。チェンバロを西川清子氏に師事し、チェンバロ奏者、通奏低音奏者として活動の場を広げ、1985年ビデオ・ディスク「チェンバロのすべて」録音。1986年より盛岡在住。1992年より盛岡バッハ・カンタータ・フェラインのオルガニストを務め、ドイツ演奏旅行での通奏低音、佐々木正利氏、岩城宏之氏、H.J.ロッチュ氏指揮の盛岡バッハ・カンタータ・フェライン20周年記念演奏会において通奏低音を務める。他にも各種演奏会において、チェンバロ、通奏低音、伴奏ピアニストとして活動の場を広げている。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン伴奏者。グルッペ・ベッヒライン会員。盛岡大学短期大学部助教授。岩手大学教育学部音楽科非常勤講師。



## オーケストラ・メンバー

---

### 《 第1 ヴァイオリン 》

- 蒲 生 克 郷 東京芸術大学卒業、東京芸術大学管弦楽研究部講師 同部コンサートマスター  
松 川 裕 子 A.U.Z.Sinfonietta 及びフィルハーモニーカンマーアンサンブルメンバー  
高 木 聡 東京芸術大学卒業、東京芸術大学管弦楽研究部非常勤講師  
磯 田 ひろみ 東京芸術大学卒業、同大学院修士課程1年在籍  
利 光 佳 代 東京芸術大学管弦楽研究部非常勤講師

### 《 第二ヴァイオリン 》

- 花 崎 淳 生 東京芸術大学大学院修了、「エルデーディ弦楽四重奏団」「古典四重奏団」メンバー  
大 谷 美佐子 東京芸術大学卒業、フリーランサーとして活動  
長 岡 聡 季 東京芸術大学大学院生  
宮 本 恵 東京芸術大学管弦楽研究部非常勤講師

### 《 ヴィオラ 》

- 深 沢 美 奈 1997年東京芸術大学を経て同大学院修了  
猪 谷 さくら 東京芸術大学卒業、

### 《 チェロ 》

- 大 木 愛 一 東京芸術大学大学院修了、大阪教育大学助教授  
牧 野 ルル子 東京芸術大学大学院修了

### 《 コントラバス 》

- 田 邊 朋 美 東京芸術大学、同大学院修了、東京フィルハーモニー交響楽団団員

### 《 フルート 》

- 立 川 和 男 東京芸術大学大学院修了、日本フィルハーモニー交響楽団首席フルート奏者  
池ノ谷 光 洋 東京芸術大学音楽学部卒業、フランス国立ムードン音楽院卒業

### 《 オーボエ 》

- 小 畑 善 昭 東京芸術大学音楽学部助教授  
工 藤 亜紀子 東京芸術大学在学中

### 《 ファゴット 》

- 寺 下 徹 立教大学独文科、東京芸術大学、ミュンヘン国立音大卒業

### 《 オルガン 》

- 劔 持 清 之 盛岡大学短期大学部助教授

## “3つのさか、NATO、そして先送り”

佐々木 正 利

先日、3年連続最下位にも拘わらず、来年もまた指揮権を執ろうとしていた、阪神タイガースの野村克也氏が、夫人の脱税容疑逮捕で監督辞任に追い込まれたことは、記憶に新しい。以前、何かの本で読んだのだが、この野村氏、人生には3つのさかがあると語っていた。即ち、上り坂、下り坂、そして《まさか》である。

思えば、21世紀の始まりの年の昨年、本当にいろんな《まさか》があった。9月のテロはその最たるものだったが、それ以外にも大小入り混せて、実に様々な《まさか》があったに違いない。この《まさか》、必ずしも悪いことばかりとは限らず、良いこともあるから、嬉しい。

さて、我が盛岡バッハ・カンタータ・フェラインは、この2月で創立満25周年を迎える。そう、あれは1977年の2月のことだった。当時芸大の博士課程に在学していた私のもとに、フェラインの初代代表となる石倉久夫氏（現県職員）が訪ねてきたのだ。何と、盛岡でバッハのカンタータを歌う会を創りたいと言う。その指導者になってくれないか、と。今でこそ、ポピュラーになったけれど、その頃バッハのカンタータは決してメジャーなものではなく、それこそ楽譜もレコードもすんなり手に入るものではなかったから、盛岡でカンタータ！？、正に嬉しい《まさか》である。

1970年に芸大にカンタータ・クラブを創り、不撓不屈の精神で活動を続けてきたが、メンバーの卒業などで、二度の浮き沈み（上り坂&下り坂）を経験し、丁度その時は二回目のボトムの時だったから、石倉氏からの申し出、それはもう嬉しくて、二つ返事でOKしたものだ。が、である。何しろ上野から盛岡まで特急で7時間近くもかかった時代、いつまで根気が続くやら、と内心想ったものだ。でも今日、こうして25周年を寿いでいる。フェラインの創立メンバーからみたら、これも嬉しい《まさか》ではある。

創立してから2~3年は、お金もメンバーも充足にはほど遠い状態だったので、単独で演奏会を開くことは能わず、逆に楽器編成等に捕らわれることもなかったから、何でもかんでも選り取り見どりで練習できた。名曲を片っ端からさらえるなんて何という幸せ。完成させる必要もなかったから、当時のフェラインは年間20曲ぐらいはやったんじゃないかな。この頃の趨勢は、横ばいという感じだったけれど、そこは人間、やはり発表の機会が欲しくなり、私の橋渡しで、芸大のカンタータ・クラブを盛岡に招き、合同演奏会を二、三回開くようになっていたフェラインは、正に上り坂にかかろうとしていた。

そのフェラインに難題が持ち上がる。1979年度を最後に私が辞めることになったのだ。私が辞めるといったなら、多くの方々は「また佐々木の我がままか、物議を醸し出すことが本当に好きなんだから」とお思いになられることだろう。でも、残念でした。私にだって、まともな理由で辞めると言い出す時

もあるのだ。そう、大分年をとってきた私に残された、最後の留学のチャンスが巡ってきたのであった。日本における、すべての柵を断ち切って、私はドイツに留学することに決めたのだ。鉄砲玉の佐々木である。行ったら二度と帰ってくるかは分からない。困ったもんだが、フェラインには相談はしなかった。ただ、行く、それだけである。だからこの時、フェラインは確実に下り坂を覚悟したに違いない？。

普通だったなら、フェラインは瀕死の重症を負うはずであった。絶対に佐々木あつてのフェラインでなければならなかったはずだ。ところがである。そんなことはまるでなかったんだね、これが。捨てる神あれば拾う神あり、ではないけれど、この窮地を補って余りある、素晴らしい人材をフェラインは獲得したのだ（フェラインはホントに運がいいんだから）。そう、本日のコンサート・マスター、蒲生克郷氏が、この窮状を見兼ねて名乗りを上げて下さったのだ。芸大管弦楽研究部のコンサート・マスターを務める蒲生氏。私よりも、まず耳がいい。音楽全般やバッハについての知識も豊富、そして内に秘めた情熱がまたすごい。私が氏に勝っていると思えるのは、上背と飲みの量ぐらいか。彼の指揮者就任で、フェラインの趨勢は、なお一層上り坂になった。

いつまでたってもナイスガイの蒲生氏。そのもつとでフェラインはまた多くの経験を積む。ただ、演奏を究極の目的とはしない、とするフェライン理念が、時には作り上げの厳しさからの逃避につながり、佐々木はともかく、蒲生氏から戴いた膨大な知識量をして、少々当時のフェラインは仮分数にすぎたかもしれない。それにしても蒲生氏はいさぎよい。志し半ばにしてドイツから佐々木が戻ってきた時、あっさりとその地位を明け渡してくれたのだから。そして、私の帰国は、良いか悪いか知らないが、やはり《まさか》の一種ではあったのだ。

1982年、私は岩手大学に奉職する。前々から思っていたことだが、岩手には才能溢れる人材が多い。ただ、その才能を発掘してあげたり、開花させてあげたりする機関や場があまりにも少なかっただけだ。その意味でも意気に燃え、期待をもって私は岩手大学に着任した。結果はどうだったか。そう、思っていた通り、人材の宝庫だった。こちらが教えれば教えるほど目が輝く。それはまるで、イタリア・オペラを鑑賞している時の芸大生の如きである。声楽に留まらず、音楽はてさて芸術全般についてまで、余すところなく情報を伝授したが、岩大生は乾いたスポンジが水を吸収するがごとく、それらをどんどんものにしていった。さすればカンタータである。カンタータにだって興味をもってくれるに違いない。そうすれば佐々木にとつても、上り坂が確約されるというものだ。

この年、再びフェラインに復帰した私は、我ら夫婦の自己紹介も兼ねて、11月に“バッハのタベ”と題し、それぞれソロ・カンタータを披露した。同時に、合唱カンタータ（と言ってよいかわからないが……。本当はコラール・カンタータと呼ぶ）の第4番でもって、バッハの合唱バリエーションの素晴らしさを堪能して戴こうと試みた。この成果は徐々に表れ、翌83年には大量（と言っても過言でないほど）の岩大生がフェラインに入会、現在の基盤を作ることとなる。が、一方で、ある《まさか》が私を襲う。コンクール一辺倒の合唱界の抵抗感にである。私自身だってコンクールで見い出され、育てられた人間だ。ただ、これほどまでに県の合唱界が拘泥しているとは予想だにできなかった。世界の合唱界の歴史を見てみても、フェラインのような活動はそれこそ一般的なもの、岩大合唱団も世話することになっていたからか、コンクールに出ないことがそんなに悪なのかと、正直思った。

ともあれ、バッハ生誕300年を迎える1985年に向けて、フェラインは長い充電期に入った。ともか

く、実力を蓄えることである。本当の楽しみ、音楽の喜びを享受するには、苦勞に苦勞を重ねた練習が必要だ。昔のフェラインとは違うんだもの、ね。ここにおいて、私の指導も、講習会的ものからレッスンのようなものへと変わっていった。今思えば、この時期の基盤養成がフェラインをここまで成長させたのだ、確かに。1985年3月から翌86年4月までの約1年の間に、ヨハネ受難曲、英語版メサイア、ドイツ語版メサイア、シュッツのドイツ・レクイエムを演奏し、第一回ドイツ演奏旅行まで敢行したのだから、今のフェラインが大変なんて言っていられないほどの、《まさか》である。

あれから10数年、フェラインは数々の歴史を刻んできた。四度も欧州へ演奏しに出掛け、その度ごとに過大な評価を頂戴し、マエストロ・ヴィンチャーマンには絶大な信頼を勝ち得た。昨年は、ついに最も想像できない(らしい)《まさか》の一つ、フェラインが第九を!?!、の大《まさか》が起き、やはり世界の巨匠マズア氏から絶賛の声を戴くこととなった。そして、今年はライプツィヒ・バロック・オーケストラとの共演が予定されている。かつて、世界に名立たるドイツ・バッハゾリステンの共演団体にフェラインが指名された時、中央のバッハ指導者たちは、何故に?という疑問を抱いたという。同じことが、ボンでの公演時にドイツでも起こり、何故にヴィンチャーマンはドイツの合唱団を使わないのだ、という声が事前に上がったそうである。この両者とも、演奏を聴いて戴いて即刻納得となったのだが、本場からみて場末の日本の、東京からみて場末の盛岡で、こうした文化発信ができていくことに大いなる意義があるのではないだろうか。

先日、新聞紙上で、アメリカ・コロンビア大学の経済専門の教授が、NATO北大西洋条約機構に引っ掛けて、小泉首相はまるでNATO、即ち“NO ACTION TALK ONLY”なのに、何故日本国民の支持率があんなに高いのか分からない、旨の発言をしていた。思えば、昨今はこのタカ派首相に引っ張り回されている感がある。改革断行を唱えながら、先送りが多いのもこの内閣の特徴、その功たるやもう少し時間をかけて見るしかあるまい。この改革、フェラインにとってもあながち無縁ではない(かもしれない)。風が吹けば桶屋が儲かる式の三段論法ではないが、既に新聞でも紹介されていたように、岩手大学が統合に向けて動いている。それより先に、教育学部の統廃合が必ず来る。早い話、盛岡に教員養成機関が残ったとしても、それは小学校教員養成に特化されるであろうから、私なんぞは身の振り方に窮することになるのだ。さすれば、盛岡を離れる!?!。。。フェラインにとっては、下り坂にかかることになるのだろうか。

話を元に戻そう。昨年のフェラインには、もう一つの《まさか》があった。8月に、バッハが後半生カントール(聖歌隊指揮者)を務めた、ライプツィヒ聖トマス教会での演奏会に出演したのである。その日(8/11)は土曜日にあたり、毎週その夕方には、当聖歌隊がカンタータを演奏する慣わしになっているのだが、縁あってその日は、聖歌隊の代わりに、フェラインの姉妹団体ともいべき、岡山バッハ・カンタータ協会が担当することになった。ところが蓋を開けてみると岡山からの参加者がとても少なく、フェラインに応援要請があったという訳である。盛岡からは、仙台の仲間にも声を掛けて、総勢30余人の参加と相なったのだが、ここでの《まさか》が二題。バッハの聖地で歌えるなんて思ってもみなかった《まさか》に加えて、演奏会のプログラムの合唱団の欄には、何と盛岡バッハ・カンタータ・フェラインの名が載っているではありませぬか。これはホントに、《まさか》でした、はい。これなどは、

先の小泉首相の NATO とは違って、フェラインが不言実行を地でいっていることを如実にあらわすもの。イベントを吹聴して、イベントのために活動している訳ではない、という理念や姿勢を、神様はしっかり見ていてくれた、と内心感謝したものである。

活動理念といえば、フェラインはいろんな面でおもしろい。その一端を紹介しよう。まず、団員資格についてである。これは実に簡単だ。一言でいえば、やりたい者はみなどうぞ、である。つまり、バッハに興味がある、カンタータに興味がある、バロックに興味がある、合唱に興味がある、オケと一緒に興味がある、外国に行けるに興味がある、勿論キリスト教音楽に興味がある、はてさてフェライン自体に興味がある、コンサート・マスターの人物に興味がある、ピアニストに興味がある、ひょっとしたら指揮者に興味があるも OK だ！。要するに、来るもの拒まず、去るもの表面的には追わず（内心未練たらたら）の精神がそこには、ある。譜面が読めようが読めまいが、関係なし。練習も毎回出なくても一向に構わず、遠隔の地からも大歓迎、といった体である。パートの人数バランスなんてお構いなし、演奏スタイルだって無頓着に、フェラインスタイル！、と言っただけのける。オケ6人で充足できる室内カンタータを 150 人の合唱が迎え撃つなんて、それこそ常識では考えられない、《まさか》である。本日の第 150 番が正にそうだ。さて、どうなりますことやら……! ?。

フェラインのおもしろさはまだまだあるけれど、興味られる方は直接体験して戴くことにして、そろそろ締めに入らないと、印刷係から大目玉を喰らいそうだ。こんなフェライン、本日から 26 年目の活動がスタートする。只今、絶好調！、のフェラインだが、調子よくみえている時は、必ず水面下で悪いことが育っているという。我々の未来なんて神様しか分からないけど、でも、まだまだ無理が利く内にやっておかねばならないことがある。それは後継者づくりである。フェライン出身の歌手は確実に成長し、本日のソリストたちも、家内を除いて全員フェラインから巣立っていった者たちである。彼ら以外にも、アメリカや欧州でソリストとして活躍している出身者がいる。誠に嬉しい限りである。が、盛岡での後継者をそろそろ考えなくてはならない。いや、既に二人のコンサート・マスターをはじめとして、立派な指導者をフェラインは沢山抱えているが、すべての体制を整えながら、徐々に徐々に譲渡を図らねばなるまい。性急に、今直ぐという訳ではないが、今までは先送りしてきた懸案事項が、先送りできなくなる日もやがて来る。小泉首相の改革と、どちらが早いのか。利害からいったら、是非首相に勝って貰いたいと心から願うのだが。

今回は直前の不出演申し出者が非常に多かった。フェラインの性格からいっても、そうしたことは過去にもあるにはあったが、独立採算を図り計画をもって遂行している役員の方々は、ほとんど困ったに違いない。それでも役員は、嫌な顔一つせず、会のために働いてくれている。毎回、毎回本当に感謝の仕様がなほほどである。内輪話が続いたついでに、開き直って役員のみなさまへの感謝を最後に綴らせて戴いた。どうぞ、お許し願いたい。そして、今後ともフェラインの活動に温かいご声援をお送り下されば幸甚である。岩手の文化を上り坂にし、フェラインもみなさまから上り坂に押し上げられたらと、そう心より願う。

(盛岡バッハ・カンタータ・フェライン指揮者)

## バッハとブラームス

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン  
コンサート・マスター 佐々木 幹 雄

バロック音楽の巨匠、J. S. バッハが活躍したのは18世紀前半のドイツ。一方、ロマン派の流れの中にあって、古典的な音楽形式を尊重しその形式の中で自己を存分に表現しようとしたブラームスは19世紀後半に活躍した。この兩者をつなぐ時代、つまり18世紀後半から19世紀前半のヨーロッパは、産業革命とその結果引き起こされた市民革命により市民が力を蓄えつつあった変革の時代である。この変革の波は音楽作品の創作や受容にも大きな影響を与えた。それまで主に宮廷や教会を中心として行われてきた音楽の演奏が、しだいに市民を対象とした「公開演奏会」というスタイルに変化するのである。それに伴って音楽家たちは、宮廷や教会への勤めの一つとして作曲活動を行うという立場から、独立した作曲家・芸術家として音楽作品を作ること自体を目的とするように変化する。ブラームスは、このような芸術家としての意識をもった音楽家の一人であった。

バロック時代に主に宮廷や教会で音楽活動を行っていたJ. S. バッハの作品は、彼の没後しばらくのあいだ多くの人々から忘れ去られていた。しかし1829年にロマン派の作曲家F. メンデルスゾーンがバッハの『マタイ受難曲』を復活蘇演したことをきっかけとして再評価され、バッハ復興運動へとつながり、1850年にはバッハ協会が設立されるまでに至った。このような時代の流れの中でブラームスはバッハに目を向け、その作品から対位法の技法や変奏の技法などを学びとっていった。

### J. ブラームス

ヨハネス・ブラームス (Johannes Brahms 1833-1897) は北ドイツのハンブルクに生まれた。その家庭は、父親がホルン奏者としてある程度安定した収入を得ていたとはいえ、きわめて貧しかった。しかし教育への関心は高く、幼少時には父親がヴァイオリンとチェロを教え、就学に際してもある程度の水準の学校を選んで入学させている。7歳からは「ピアニストというものは、心で感じたものを指で表現できなければいけない」と主張する教師オットー・コッセルに師事し、十代になるとコッセルの師であるE. マルクスゼン (1806-1887) に師事する。マルクスゼンはブラームスを高く評価し、作曲についても教えた。ここでバッハとベートーヴェンの作品を教材として使ったことが、ブラームスの音楽観に大きな影響を与えている。またこの頃にはアルバイトとして酒場やダンス・ホールでピアノを演奏したり、一方でロマン主義的文学に傾倒したりしていたことも知られている。

その後はハンブルクでピアニストとして活動していたが、1853年(20歳)にヴァイオリニストのエドゥアルト・レメーニとドイツ各地を演奏旅行して歩く中で、ヨーゼフ・ヨアヒム、フランツ・リストらと出会い、同年9月にロベルト、クララのいるシューマン家をデュッセルドルフに訪ねることになる。この訪問によりR. シューマンが『音楽新報 (NZM)』に「新しい道」と題した記事を書き、これによってブラームスは広く知られるようになった。

合唱作品成立との関わりで興味深いのは、1857年からの2年間デトモルトの宮廷で合唱指揮やピアノ教師をつとめたり、1859年にハンブルクの女声合唱団の指導にあたりたりしたことである。この頃から合唱作品が多くなっている。また1863年から翌年までつとめた、ウィーンのジングアカデミーの指揮者として、着任後最初の4回の演奏会でバッハのカンタータやルネサンスの合唱曲などを取り上げるなど、歴史主義的傾向を示した。

合唱作品で最もよく知られているのは『ドイツ・レクイエム』(1857-68年)であろう。ブラームス自身が聖書からテキストを選んだ作品である。彼の最大の理解者R. シューマンの死(1856年)、愛する母親クリスティアーネの死(1865年)が作曲の動機ではあるが、この『ドイツ・レクイエム』は「苦悩する者への慰め」が全体のテーマとなっており、聴く者に癒しと慰めを与える。これは本日演奏するモテットにも共通して感じられる情感である。

### 『2つのモテット』(Op. 29)

1860年頃に作曲され1864年に初演されたこの作品は2曲のモテットから成っている。時代により多少意味のちがいはあるが、モテットとは一般に宗教的なテキストを用い無伴奏または非常に簡素な伴奏をもつといった特徴をもつ合唱曲である。

第1曲は『救いはわれらより来る』(テキスト：パウル・スペラートゥス)というコラールの第1節のテキストと旋律を使用し、ホ長調で書かれている。前半は動き回る下3声部の多彩な和声に支えられ、ソプラノがコラール旋律を歌う。後半は「アレグロ」と指示された5声(バスが2声部に分かれる)のフーガで、コラール旋律を縮小した動機が使われている。定旋律はバス1に置かれている。コラールの4つのフレーズが分割され、各フレーズごとにフーガが展開される。

第2曲は「神はわがために清き心をつくれ」で始まる旧約聖書の詩篇51番の12~14節をテキストとしている。大きく4つの部分から成る。第1部は「アンダンテ・モデラート」の2/2拍子。「清い心をつくり、確かな精神をお与え下さい」という神への祈りで、落ちついたト長調。第2部は「アンダンテ・エスプレッソイーヴォ」であるが曲調は一転し、ト短調で4/4拍子。悩める魂が「御前を去らせないで下さい」と願う、緊張度の高いフーガである。第3部は「アンダンテ」6/4拍子。希望を予感させる明るいつ長調に戻り、男声・女声各3声部の計6声部で慰めと期待が歌われる。最後の第4部では「アレグロ」へと変化し、喜ばしい魂の躍動するフーガとなる。その終末部では「アニマート」へと移行し、希望と確信を歌い上げる。

### 『2つのモテット』(Op. 74)

1879年頃に初演されたこの作品74『2つのモテット』も、作品29同様に対照的な2つのモテットから成っている。

第1曲「いかなれば艱難にある者に光を賜い」は4部から成る。まるで旧約聖書のヨブ記全体を凝縮し、聴く者に神への信仰を説く

カンタータといった趣である。第1部のテキストは、神を畏れ正しく暮らしてきたヨブ自身が、サタンを通して行われた神の試練によって全てを失いなおも自身は病におかされることにより、自分が生まれてきたことを呪った嘆きである。冒頭「Warum? (なぜ)」と2

度繰り返すうちに進行する4つの和音によって、一気に深い嘆きへと引き込まれる。二短調で始まるフーガには半音階進行が悩みを表現する。第2部はヘ長調6/4拍子となり、神に全幅の信頼を寄せ神を讃えようと、短しながら6声部に拡大され厚みを増した音楽が展開される。第3部はソプラノに定旋律を置いたハ長調のコラールである。ヨブのように堪え忍んだ人が最後に神によって救われると語る、ヤコブの手紙（新約聖書）からのテキストである。途中から6/4拍子となり、主の慈しみ、憐れみの深さを讃える。第4部はM. ルターによるドリア旋法のコラールで、4声部で書かれている。悔い改め神に従ったヨブのように「私も御心に従おう」と、信仰が語られる。

第2曲「おお救世主よ、天国を引き開けて」は同名のクリスマス用コラールを用いたコラール変奏曲といった構成である。全編を通して4声部で書かれている。第1部ではソプラ

ノに定旋律が置かれ、救い主の到来を力強く願う。第2部では作品29の1同様、コラール旋律を縮小した動機の積み重ねの上でソプラノが定旋律を歌うというポリフォニックな構成である。「Tau (露)」を表現するように、下3声部の音符は細かくなっている。第3部では定旋律がテノールに移る。緑の芽生えにより地に生命が満ちあふれる様子を、冒頭のホモフォニックなスタッカートと続く3連符のリズムで表現する。ブラムスらしい効果的なリズムの使用と言えよう。続く第4部ではバスが定旋律を担う。2/2拍子のアダージョで、これまでの躍動感に満ちた雰囲気は悩み苦しみながら救いを求める雰囲気へと変化する。最後の第5部は4/4拍子のアレグロ。歌詞は同コラールの7番が用いられており、定旋律は変形した形でソプラノに表れる。力強い歩みが復活し、終末の「アーメン」の祈りへとつながっていく。

### J.S.バッハ

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (Johann Sebastian Bach 1685-1750) はドイツのアイゼナハで生まれ、オールドルフ (1695-1700)、リューネブルク (1700-02)、アルンシュタット (1703-1707)、ミュールハウゼン (1707-08)、ヴァイマル (1708-1717)、ケーテン (1717-23) といった北ドイツ各地で教会や宮廷のオルガニストや楽師、楽長などをつとめた後、1723年から没するまでライプツィヒの聖トーマス教会のカントルをつとめた。多くのオルガン曲、器楽曲を残したが、数の上で最も多く残されているのがカンタータである。カンタータとは、器楽伴奏を伴う独唱ないし合唱曲から構成されるものであり、ルター派教会の礼拝において「音楽による説教」の役目を果たす「教会カンタータ」と呼ばれるものと、貴族や市民の祝賀のための音楽である「世俗カンタータ」と呼ばれるものとに分けることができる。本日演奏する3つのカンタータはいずれも教会カンタータである。

#### 『主よ、われ汝を仰ぎ望む』 BWV150

このカンタータは作曲様式から1708年以前に作曲された極初期のものと考えられている。器楽編成は弦楽合奏、通奏低音、そして

ファゴットといった小規模なもので、初演時の制約であろう。詩篇第25篇をテキストの基本とし、それを合唱が歌い継ぐ間に自由詩(作



者不詳)によるアリアがはさまれる。キリスト者が現世における苦難の中で神を信じその救済を待ち望む心情が中心テーマとなっている。

第1曲(アダージョ、ロ短調、4/4拍子)は器楽のみによるシンフォニアで、続く第2曲合唱の半音階下降テーマを先取りしている。第2曲は合唱で、第1曲から引き続き「アダージョ、ロ短調」で始まり、以降「アレグロ、嬰へ短調」→「ウン・ポコ・アレグロ」→「アダージョ」→「アレグロ、ロ短調」→「アダージョ」とテキストに応じて短い単位で曲趣が変化する。ポリフォニーとホモフォニーが交替しながら最後のフーガに向かうという構成は、バッハのオルガン曲にみられる「プレリュードとフーガ」に類似する。冒頭に示される半音階下降テーマは、主を仰ぎ見る「わたし」のあこがれ(8度跳躍)と現世の苦難(半音階下降)を象徴する。

第3曲(ロ短調、4/4拍子)はソプラノによるアリア。「厳しい現世ではあるが正義を備えた僕である私はそれに満ち足りている」と歌う。テキストの語句に対応した音楽が丁寧に書かれている。第4曲(アンダンテ、ロ短調)の合唱は第2曲と同じように短い単位で曲趣が変化するスタイルである。ただし、第2曲で聴かれたような苦難を示す半音階的な音形が変わって、全音階的な進行が支配する。冒頭で「leite(導いて下さい)」が合唱4

声部とヴァイオリン2声部の計6声部によって3オクターブにわたって音階のように上昇させることで「神の導き」を表現したり、後半で「harre(待ちこがれる)」を長く引き延ばすことで「ひねもす待ちこがれている」ことを表すなど、歌詞を象徴的に扱っている。

第5曲(二長調、3/4拍子)では嵐を象徴するファゴットのめまぐるしく動き回る低音の上で、アルト、テノール、バスの三重唱が確かな歩みで歌われる。続く第6曲(二長調、6/8拍子)は主に向かう「わたし」のまなざしをホモフォニックに、後半(アレグロ、ロ短調)では「主が現世の様々な苦難をから救ってくださる」と確信に満ちたフーガで表現する。

最後の第7曲(チャッコーナ、ロ短調、3/2拍子)は自由詩をテキストとする合唱である。シャコンヌの低音テーマが22回繰り返され、その低音の上で多様な変奏が展開する。はじめは合唱がホモフォニックに、続いて4人のソロがテキストを引き継ぎながら、そして後半には合唱が模倣的に歌い継いでゆく。それによって「イエス・キリストの助力によって苦しみの日々に打ち勝つことができる」という確信が高まる中で終末をむかえる。ブラームスはこの曲に学び、ここで用いられているシャコンヌ主題を1885年に完成させた『交響曲第4番』の第4楽章のテーマとして用い、様々な変奏を書いている。

### 『待ち望みたる喜びの光ぞ』BWV184

このカンタータは1724年(5月30日)にライプツィヒで初演された、聖霊降臨節第3日用のカンタータである。フルート(トラベルソ)2本と弦楽のみのシンプルな器楽編成である。原曲はケーテン時代の新年用世俗カンタータであったと考えられており、後になって改作され第5曲のコラールが追加された。ケーテン時代の作品特有の豊かな舞曲風音楽

が残っている。

聖霊降臨節はペンテコステ(Pfingstfeiertag)とも称され、イエス昇天の祝日の十日後で復活日の7週間後にあたる日で、キリスト教会の誕生した日とされている祝日である。従って歌詞も喜びに満ちたものとなっている。

第1曲レチタティーヴォはイエスの降臨を喜ぶテノールに、フルートによる印象的なオ

ブリガートがつく。最終部分にはアリオソが表れ、「mit Freuden (喜びをもって)」の歌詞がメリスマで書かれており、「喜んで墓に至るまで従おう」という情感が示される。続く第2曲はソプラノとアルトによるダ・カーポ形式の二重唱である。ト長調のパストラレ風な曲想で、キリスト者に「至福の羊の群れよ」と呼びかける。

第3曲は再びテノールによるレチタティーヴォである。「選ばれた魂」に向かって天国の喜びを告げる。続く第4曲はテノールのアリア。ポロネーズ風のリズムの独奏ヴァイオリンを伴い、教会に集う人々にその「黄金の時」の素晴らしさを歌いかける。第5曲は4声部

から成るコラール。主に向かって「彼ら」の救いを願うテキストだが、後段では「わたし」の願いへと人称が変化し、より内面にせまるコラールとなっている。

ほとんどのカンタータはコラールを終曲としているが、このカンタータはコラールの後に第6曲の合唱が続いている。ト短調、2/2拍子のガヴォットのリズムにのって「われら」への主の慰めを願う。ダ・カーポ形式になっており、中間部はソプラノとバスの二重唱(デュエット)が典雅に展開される。なおこの曲は『ヘルクレス・カンタータ』(BWV213)の終曲に再び転用されている。

### 『飢えたる者にパンを裂き与えよ』 BWV39

1726年の三位一体後第1日曜日にライプツィヒで初演されたこのカンタータは、ブロック・フレーテ2本、オーボエ2本を伴う比較的規模の大きなカンタータである。全7曲が2部に分かれており、第1部の冒頭には旧約(イザヤ書)から、第2部の冒頭には新約(ヘブライ人への手紙)からの聖句が置かれ、コラールを除くその他の自由詩の部分はアリアとレチタティーヴォがシンメトリカルに配置されているという特徴をもつ。

第1曲の合唱はト短調で、拍子は3/4→4/4→3/8と変化する。冒頭の3拍子の部分はブロック・フレーテ、オーボエ、弦楽器の三者が、掛け合いによって「パンを裂き分け与える」ことを象徴する。合唱も同様に女声と男声が掛け合うかたちで「飢えたる者にパンを裂き与えよ!」と力強く訴える。中間の4拍子の部分は「裸の者を見たならば衣服を着せよ」と語るように訴える。続く3拍子の部分では生き生きとしたフーガで「慈悲を行う者の暁のような光」と「主の栄光」が輝かしく歌われる。

第2曲レチタティーヴォでは、神が与えて

下さった富を隣人に分け与えるようバスが勧める。続く第3曲のアルトのアリア(ヘ長調、3/8拍子)はオーボエとヴァイオリンのソロを伴って、「神の憐れみにならう行為は天国における至福を予感すること(Vorschmack)だ」と歌い、第1部を終える。

第2部の冒頭となる第4曲のアリアは通奏低音とバスの独唱のみで演奏される。「慈善と施しを忘れるな」とシンプルな曲想で淡々と諭す。

第5曲ソプラノのアリア(変ロ長調、6/8拍子)では2本のブロック・フレーテがユニゾンでオブリガートを波のように奏で、「神の御前に立ち神の恩寵に対する感謝と喜び」を表す。続く第6曲のレチタティーヴォでは、弦楽伴奏を伴うアルトが「私の隣人への施しを受け入れて下さい」と神に願う。

第7曲のコラールでは、「Selig sind(幸いなるかな)」と施しを行う者が慈悲を得、祝福されることを喜びをもって歌い、カンタータの全曲を締めくくる。

2001.12/18

## 歌詞対訳

訳：佐々木 幹雄

### 2つのモテット 作品 29 Zwei Motetten Op. 29

#### 第1曲 救いはわれらより来る Nr. 1 Es ist das Heil uns kommen her

Choral, Fuga á 5

Es ist das Heil uns kommen her  
von Gnad und lauter Güte,  
die Werk, die helfen nimmermehr,  
sie mögen nicht behüten.  
Der Glaub sieht Jesum Christum an;  
der hat gnug für uns all getan,  
er ist der Mittler worden.

コラール(および5声のフーガ)

幸福が私たちにもたらされた、  
主の恵みと、純粹なる善きものから。  
人間の行ってきた努力はもはや助けとはならず、  
それらは護ってもくれないだろう。  
イエス・キリストの内に信仰を見る。  
私たちがすべてにとって十分なほどになされた彼は  
神と人間とを結ぶ仲立ち者となって下さった。

歌詞: Paul Speratus(1484-1511)

#### 第2曲 神はわがために清き心をつくれ Nr. 2 Schaffe in mir Gott ein rein Herz

Andante moderato

Schaffe in mir, Gott, ein rein Herz  
und gib mir einen neuen gewissen Geist.

アンダンテ・モデラート

神よ、わたしの内に清い心を創造し  
新しく確かな霊をさずけてください。

Andante espressivo

Verwirf mich nicht von deinem Angesicht  
und nimm deinen heiligen Geist nicht von mir.

アンダンテ・エスプレッスィーヴォ

御前からわたしを退けず  
あなたの聖なる霊を私から奪い取らないでください。

Andante, Allegro, Animato

Tröste mich wieder mit deiner Hilfe,  
und der freudige Geist erhalte mich.

アンダンテ, アレグロ, アニマート

あなたの救いによって再び私を慰め、  
喜ばしい霊が私を支えて下さいますように。

Psalm 51,12-14

詩篇 51 番 12-14 節

### 2つのモテット 作品 74 Zwei Motetten Op. 74

#### 第1曲 いかなれば艱難にある者に光を賜い

##### Nr. 1 Warum ist das Licht gegeben dem Mühseligen

1.

Warum?  
Warum ist das Licht gegeben dem Mühseligen,  
und das Leben den betäubten Herzen?

なぜ、  
なぜ、光が苦勞する者に与えられるのか、  
そしてなぜ命が悲しんでいる人の心に与えられるのか。

Warum?  
Die des Todes warten und kommt nicht,  
und grüben ihn wohl aus dem Verborgenen;  
die sich fast freuen und sind fröhlich,  
daß sie das Grab bekommen.

なぜ、  
彼らは死を待っているのに、死は訪れないのだろうか  
隠された宝から死を掘り求め、  
彼らが墓を得れば、  
喜び踊りだしてしまいそうになるというのに。

- |                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>Warum?<br/>Und dem Manne, daß Weg verborgen ist,<br/>und Gott vor ihm denselben bedekket.<br/>Hiob 3,20-23</p>                                                                                                               | <p>なぜ、<br/>行くべき道が隠されている者の前を<br/>神はなお覆われるのだろうか。<br/>ヨブ記 3,20-23</p>                                                                 |
| <p>2.<br/>Lsset uns unser Herz samt den Händen aufheben<br/>zu Gott im Himmel.<br/>Klagel. Jerem. 3,41</p>                                                                                                                      | <p>私たちの心を両手もろとも挙げよう、<br/>天にいます神に向かって。<br/>哀歌 341</p>                                                                               |
| <p>3.<br/>Siehe, wir preisen selig,<br/>die erduldet haben,<br/>Die Geduld Hiob habt ihr gehöret,<br/>und das Ende des Herrn habt ihr gesehen;<br/>denn der Herr ist barmherzig und ein Erbarmer.<br/>Jakobus 5,1</p>           | <p>見よ、私たちはこの上なく讃える、<br/>堪え忍ぶ人々を。<br/>ヨブの忍耐をあなたがたは聞き、<br/>主がしてくださった最後を見た。<br/>主は慈しみ深く、憐れみ深い方なのだから。<br/>ヤコブの手紙 5,11</p>              |
| <p>4.Choral<br/>Mit Fried und Freud ich fahr dahin,<br/>in Gottes Willen,<br/>getrost ist mir mein Herz und Sinn,<br/>sanft und stille.<br/>Wie Gott mir verheißen hat,<br/>der Tod ist mir Schlaf worden.<br/>Mrtin Luther</p> | <p>安らぎと喜びの内に、私はそこへ行く、<br/>神の御心の内へ。<br/>わが心と精神は慰められる、<br/>やさしく、そして穏やかに。<br/>神が私に約束して下さったように、<br/>死はわたしにとって眠りとなった。<br/>マルティン・ルター</p> |

第2曲 おお救世主よ、天国を引き開けて Nr. 2 O Heiland, reiß die Himmel auf

- |                                                                                                                                                                       |                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1.<br/>O Heiland, reiß Himmel auf,<br/>herab vom Himmel lauf!<br/>Reiß ab vom Himmel Tor und Tür,<br/>reiß ab, wo Schloß und Riegel für!</p>                       | <p>おお救い主よ、天を開き、<br/>急ぎ、天から降り来たれ!<br/>天の門と扉を引きちぎり、<br/>その錠前とかんぬきとを引きちぎりたまえ!</p>                        |
| <p>2.<br/>O Gott, ein' Tau vom Himmel gieß<br/>im Tau herab, o Heiland, fließ!<br/>Ihr Wolken, brecht und regnet aus<br/>den König über Jakobs Haus!</p>              | <p>おお神よ、天の露をこぼし、<br/>落ちる露の中に、おお救い主よ、流れ来たれ!<br/>雲よ、割り落とし、雨を降らせよ、<br/>ヤコブの家の上に、王を!</p>                  |
| <p>3.<br/>O Erd, schlag aus, schlag aus, o Erd,<br/>daß Berg und Tal grün alles werd!<br/>O Erd, herfür dies Blümlein bring,<br/>o Heiland, aus der Erden spring!</p> | <p>おお大地よ、芽生えよ、芽生えよ、大地よ、<br/>山と谷が全て緑となるように!<br/>おお大地よ、小さな花をもたらし、<br/>おお救い主よ、大地から湧き出よ!</p>              |
| <p>4.<br/>Hier leiden wir die größte Not,<br/>vor Augen steht der bittere Tod;<br/>ach komm, führ uns mit starker Hand<br/>vom Elend zu dem Vaterland!</p>            | <p>この地で、私は最大の悩みに苦しむ、<br/>目の前に苦き死が立ちほだかる。<br/>ああ来たりて、力強い御手により私たちを導きたまえ<br/>悲惨から父の御国へと!</p>             |
| <p>5.<br/>Da wollen wir all danken dir,<br/>unserm Erlöser, für und für;<br/>da wollen wir all loben dich<br/>je allzeit immer und ewiglich. Amen.</p>                | <p>そこで、私たちはみなあなたに感謝したい、<br/>私たちの贖い主に対し、絶えることなく。<br/>そこで、私たちはみなあなたを讃美したい、<br/>いつでも、常に、そして永遠に。アーメン。</p> |

Worte: Kölner Gesangbuch 1623 Weise: Augsburg 1666

主よ、われ汝を仰ぎ望む Nach dir, Herr, verlanget mich BWV150

1. Sinfonia

1. シンフォニア

2. Chor

Nach dir, Herr, verlanget mich.  
Mein Gott, ich hoffe auf dich.  
Laß mich nicht zuschanden werden,  
daß sich meine Feinde nicht freuen über mich.

2. 合唱

「主よ、わたしはあなたを仰ぎ望む。  
私の神よ、私はあなたに望みます。  
どうかわたしが恥を受けることのないように、  
私の敵が私に勝ち誇ることはないように。」

(詩編 25, 1-2)

3. Arie(Soprano)

Doch bin und bleibe ich vergnügt,  
Obgleich hier zeitlich toben  
Kreuz, Sturm und andre Proben,  
Tod Höll und was sich fügt.  
Ob Unfall schlägt den treuen Knecht,  
Recht ist und bleibt ewig Recht.

3. アリア(ソプラノ)

けれども、私は満足している、  
ここ現世で  
十字架、嵐、その他の試練が、  
死、地獄、不慮の出来事が、荒れ狂おうとも。  
もし災いが忠実なる僕を打つとしても、  
私には正義があり、永遠の正義であり続ける。

4. Chor

Leite mich in deiner Wahrheit  
und lehre mich;  
denn du bist der Gott, der mir hilft,  
täglich harre ich dein.

4. 合唱

あなたのまことにわたしを導いてください。  
そして、教えてください、  
あなたはわたしを救ってくださる神であるから。  
日々、私はあなたを待ちこがれています。

(詩編 25, 5)

5. Terzett-Arie(Alto, Tenor, Baß)

Zedem müssen von den Winden  
Oft viel Ungemach empfinden,  
Oftmals werden sie verkehrt.  
Rat und Tat auf Gott gestellet,  
Achtet nicht, was widerbellet,  
Denn sein Wort ganz anders lehrt.

5. 三重唱のアリア(アルト、テノール、バス)

杉の木は風によって  
たびたび多くの災難にみまわれ  
しばしば倒されることもある。  
神により定められた忠告と行いは、  
逆らうものを気にも留めない、  
なぜなら神の御言葉はそれらと全く異なることを  
教えるからである。

6. Chor

Mein Augen sehen stets zu dem Herrn;  
denn er wird meinen Fuß  
aus dem Netze ziehen.

6. 合唱

『わたしはいつも主に目を注いでいます。  
なぜなら主はわたしの足を  
網から引き出してくださるからです。』

(詩編 25,15)

7. Chor

Meine Tage in den Leiden  
Endet Gott dennoch zur Freuden;  
Christen auf den Dornenwegen  
Führen Himmels Kraft und Segen.  
Bleibet Gott mein treuer Schutz,  
Achte ich nicht Menschen trutz;  
Christus, der uns steht zur Seiten,  
Hilft mir täglich sieghaft streiten.

7. 合唱

苦しみの中にある私の日々を  
神は喜びへと終わらせて下さる。  
いばらの道にあるキリスト者を  
天国の力と祝福は導いて下さる。  
神は私の誠実な守護者として留まり、  
私は人間のたくらみをよしとしない。  
キリストは私達の側に立ち、  
日々、勝利の戦いに助力して下さる。

待ち望みたる喜びの光ぞ Erwünschtes Freudenlicht BWV184

1. Rezitativ (Tenor)

Erwünschtes Freudenlicht,  
 das mit dem neuen Bund anbricht  
 durch Jesum, unsern Hirten!  
 Wir, die wir sonst in Todes Tälern irren,  
 empfinden reichlich nun,  
 wie Gott zu uns den längst  
 erwünschten Hirten sendet,  
 der unsre Seele speist  
 und unsern Gang durch Wort und Geist  
 zum rechten Wege wendet.  
 Wir, sein erwähltes Volk, empfinden seine Kraft;  
 in seiner Hand allein ist,  
 was uns Labsal schafft,  
 was unser Herze kräftig stärket.  
 Er liebt uns, seine Herde,  
 die seinen Trost und Beistand merket.  
 Er ziehet sie vom Eitlen, von der Erde,  
 auf ihn zu schauen  
 und jederzeit auf seine Huld zu trauen.  
 O Hirte, so sich vor die Herde gibt,  
 der bis ins Grab und bis in Tod sie liebt!  
 Sein Arm kann denen Feinden wehren,  
 sein Sorgen kann uns Schafe geistlich nähren,  
 ja, kömmt die Zeit, durchs finstre Tal zu gehen,  
 so hilft und tröstet uns sein sanfter Stab.  
 Drum folgen wir mit Freuden bis ins Grab.  
 Auf! Eilt zu ihm,  
 verklärt vor him zu stehen.

2. Arie (Duett : Soprano, Alto)

Gesegnete Christen, glückselige Herde,  
 kommt, stellt euch bei Jesu mit Dankbarkeit ein!  
 Verachtet das Lokken der schmeichlenden Erde,  
 daß euer Vergnügen vollkommen kann sein!

1. レチタティーヴォ(テノール)

待ちこがれし喜びの光よ、  
 新しい契約とともに、  
 われらの牧者たるイエスを通して現れた光よ。  
 われら、以前は死の谷にて迷いわれらは、  
 今や、十分なまでに認めている、  
 いかにして、長き間待ち望んだ牧者を  
 主がお送り下さったかを、  
 われらの魂を養って下さる方  
 そしていかにしてわれらの歩みを言葉と霊によって  
 正しき道へと導いて下さったかを。  
 われら、神の選ばれし民は、神の力を認める。  
 神の御手の内にのみ、  
 われらに元気を産み出すもの、  
 わられの心を力強く励ますものはある。  
 神はわれら神の子羊の群を愛して下さる、  
 神の慰めと援助を感じ取る者を。  
 神は彼らを自惚れから、地上から救い出して下さり、  
 神を見つめ  
 いつも神の恩寵に信頼を寄せる者たちを。  
 おお牧者よ、御自身を羊の群に捧げて下さる方よ、  
 墓に至るまで死に至るまで彼らを愛して下さる方よ!  
 神の御腕は彼らを敵から守ることができ、  
 神の気遣いは我ら羊たちを精神的に養うことができる  
 そうだ、暗黒の谷を通過して進む時が来た、  
 その時、神の優しい杖がわれらを助け慰めて下さる。  
 それゆえわれらは墓に至るまで喜びをもって従おう。  
 さあ、急げ、神のもとへ、  
 そして神の前に立ち晴れ晴れとせよ。

2. アリア(デュエット:ソプラノとアルト)

祝福されしキリスト者たちよ、至福の羊の群れよ、  
 来たりて、感謝をもってイエスのそばに現れよ。  
 へつらうこの地上の誘惑を軽蔑せよ、  
 そうすればあなた方の喜びは完全なものとなる。

3. Rezitativ (Tenor)

So freuet euch, ihr auserwählten Seelen!  
 Die Freude gründet sich in Jesu Herz.  
 Dies Labsal kann kein Mensch erzählen.  
 Die Freude steigt auch unterwärts  
 zu denen, die in Sündenbanden lagen,  
 die hat der Held aus Juda schon zuschlagen.  
 Ein David steht uns bei.  
 Ein Heldenarm macht uns von Feinden frei.  
 Wenn Gott mit Kraft die Herde schützt,  
 wenn er im Zorn auf ihre Feinde blitzt,  
 wenn er den bitterm Kreuzestod  
 vor(für) sie nicht scheuet,  
 so trifft sie ferner keine Not,  
 so lebet sie in ihrem Gott erfreuet.  
 Hier schmecket sie die edle Weide  
 und hoffet dort vollkommne Himmelsfreude.

4. Arie (Tenor)

Glück und Segen sind bereit,  
 die geweihte Schar zu krönen.  
 Jesus bringt die güldne Zeit,  
 welche sich zu ihm gewöhnen.

5. Choral

Herr, ich hoff je, du werdest die  
 in keiner Not verlassen,  
 die dein Wort recht als treue Knecht  
 im Herzen und Glauben fassen;  
 gibst ihn' bereit die Seligkeit  
 und läßt sie nicht verderben.  
 O Herr, durch dich bitt ich,  
 laß mich fröhlich und willig sterben.

6. Chorus

Guter Hirte, Trost der Deinen,  
 laß uns nur dein heilig Wort!  
 Laß dein gnädig Antlitz scheinen,  
 bleibe unser Gott und Hort,  
 der durch allmachtvolle Hände  
 unsern Gang zum Leben wende!

3. レチタティーヴォ(テノール)

だから、喜べ、君たち選ばれた魂よ。  
 喜びはイエスの心に基づいている。  
 この慰めは、誰も語るができない。  
 この喜びは下々へもまた届く、  
 罪の絆にとらわれていた人々にも、  
 ユダの勇者がすでに釘付けにした者にも。  
 ダビデがわれらの側に立つ。  
 勇者の腕はわれらを敵から解き放つ。  
 もし神が、力をもってその羊の群を守るならば、  
 もし神が、あなたの敵の上に稲光を落とすならば、  
 もし神が、恐れることなく  
 彼らのために十字架上の死をとげるならば、  
 そうすれば彼らはさらなる苦難に会うことなく、  
 彼らは神の内に喜んで生きる。  
 ここで彼らは貴重なる喜びを味わい、  
 かの地における完全なる天国の喜びを待ち望む。

4. アリア(テノール)

幸福と祝福が用意され  
 神聖にされた群衆に栄光を与える。  
 イエスは、彼と親しく交わる  
 すばらしい時をもたらして下さる。

5. コラール

主よ、私はいつも望んでいます、あなたが彼らを  
 いかなる苦難の内にあっても見捨てぬよう、  
 あなたの御言葉を、忠実な僕として正しく  
 心と信仰の内につかんでいる者たちを。  
 彼らに喜んで幸福をお与え下り、  
 彼らを墮落させないで下さい。  
 おお主よ、あなたを通して私は願う、  
 私を喜ばしく、快く死なせて下さいと。

6. 合唱

善き牧者よ、あなたの民を慰めよ、  
 ただ聖なる言葉のみを与えたまえ!  
 あなたの慈悲深い御顔を輝かせたまえ、  
 我らの神よ、宝よ、留まりたまえ、  
 その全能の御手をもって、  
 われらの歩みを生へと導きたまえ!

飢えたる者にパンを裂き与えよ Brich dem Hungerigen dein Brot BWV 39

Erster Teil

第1部

1. Chor

Brich dem Hungerigen dein Brot und die,  
so im Elend sind, führe ins Haus!  
So du einen nacktet siehest, so kleide ihn  
und entzeuch dich nicht von deinem Fleisch.  
Alsdann wird dein Licht hervorbrechen  
wie die Morgenröte,  
und deine Besserung wird schnell wachsen.  
Und deine Gerechtigkeit wird vor die hergehen,  
und die Herrlichkeit des Herrn wird dich zu sich  
nehmen.

2. Rezitativ (Baß)

Der reiche Gott wirft seinen Überfluß auf uns,  
die wir ohn ihn auch nicht den Odem haben.  
Sein ist es, was wir sind;  
er gibt nur den Genuß,  
Doch nicht, daß uns allein  
nur seine Schätze laben.  
Sie sind der Probestein,  
wodurch er macht bekannt,  
daß er der Armut auch die Notdurft ausgespendet,  
als er mit milder Hand,  
was jener nötig ist,  
uns reichlich zugewendet.  
Wir sollen ihm für sein gelehntes Gut  
die Zinse nicht in seine Scheuern bringen;  
Barmherzigkeit, die auf dem Nächsten ruht,  
kann mehr als alle Gab ihm an des Herze dringen.

3. Arie (Alt)

Seinem Schöpfer noch auf Erden  
Nur im Schatten ähnlich werden,  
Ist im Vorschmack selig sein.  
Sein Erbarmen nachzuahmen,  
Streuet hier des Segens Samen,  
Den wir dorten bringen ein.

1. 合唱

飢えた人にあなたのパンを裂き与え  
悲惨の内にある人々を家へ招き入れよ!  
あなたが裸の人を見たならば、その時には衣服を着せ  
あなたはあなたの肉親から遠ざけてはならない。  
そうすれば、あなたの光は  
曙のように突然に現れ、  
そして、あなたは速やかにいやされる。  
そしてあなたの正義があなたを先導し  
主の栄光があなたのしんがりを守る。

[イザヤ書 58, 7-8]

2. レチタティーヴォ(バス)

豊かな神は、それなくして私達は息をすることもできないような  
あふれる富を私達に投げ与えて下さった。  
彼は私達の存在そのものであり、  
彼はただ享受することのみを許された。  
しかしながら、ただ  
彼の宝は私達を元気づけるだけではない。  
それらの宝は試金石である、  
彼が必要なものすら欠乏している人々に  
施しを与えるということを知らしめるための。  
彼がかの欠くべからざる慈悲深い手をもって  
私達に有り余るほどに与えて下さるとき。

私達は神が貸して下さった善きものに対する  
利息を彼の倉に運ぶべきではなく、  
隣人にじっとむけられている慈悲こそが、  
全ての贈り物にまさって、彼の心に迫ることができるのである。

3. アリア(アルト)

今既に地上で  
ただ影においてのみ創造主に似せて創られたことは  
至福の予感である。  
彼のあわれみにならうことは  
かの地で私達が採り入れるところの  
至福の種子をここにまくことである。



Zweiter Teil

第2部

4. Arioso (Baß)

Wohlzutun und mitzuteilen vergesst nicht;  
denn solche Opfer gefallen Gott wohl.

5. Arie (Sopran)

Höchster, was ich habe,  
Ist nur deine Gabe.  
Wenn vor deinem Angesicht  
Ich schon mit dem Meinen  
Dankbar wollt erscheinen,  
Will du doch kein Opfer nicht.

6. Rezitativ (Alt)

Wie soll ich dir, o Herr, denn sattsamlich vergelten,  
was du an Leib und Seel  
mir hast zu gut getan?

Ja, was ich noch empfang,  
und solches gar nicht selten,  
weil ich mich jede Stund noch deiner rühmen kann?

Ich hab nichts als den Geist,  
dir eigen zu ergeben,  
dem Nächsten die Begierd,  
daß ich ihm dienstbar werd,  
der Armut, was du mir  
gegönnt in diesem Leben,  
und, wenn es dir gefällt,  
den schwachen Leib der Erd.

Ich bringe, was ich kann,  
Herr, laß es dir behagen,  
daß ich, was du verspricht,  
auch einst davon mög tragen.

7. Choral

Selig sind, die aus Erbarmen  
sich annehmen fremder Not,  
sind mitleidig mit den Armen,  
bitten treulich für sie Gott.  
Die behülflich sind mit Rat,  
auch, womöglich, mit der Tat,  
werden wieder Hülf empfangen  
und Barmherzigkeit erlangen.

David Denicke 1648

4. アリオオーソ(バス)

『善い行いと施しを忘れないでください。  
このようないいけにえこそ神はお喜びになるのです』  
ヘブライ人への手紙 13,16

5. アリア(ソプラノ)

いと高き者よ。我が持てるもの、  
それはただ、あなたの贈り物だ。  
もしあなたの御顔の前に  
私がまったくもって自分のものを携えて  
感謝を表そうと進み出ても、  
あなたはまったくそのいけにえを望まないだろう。

6. レチタティーヴォ(アルト)

どのようにして、ああ主よ、  
あなたが肉体と魂に関して  
私に良いようにして下さったことに対して、  
たっぷりと報いるべきであろうか。

そしてまた、そうだ、私は  
いつもなおあなたを誉め讃えることができるのだから  
このような少しも稀でない何物をこそ迎え入れれば  
いいのだろうか。

私は、霊の他に  
あなた自身のために明示するものはなく、  
熱望は隣人へ  
私が彼の役に立つために、  
あなたが私に  
この人生にてお与え下さったものは貧しき人へ、  
そしてもし、あなたがそれを気に入られるなら  
この弱い肉体は地へ。

私は、私のできる限りを持っていくので、  
主よ、どうかそれを気に入り、  
そして、あなたが約束されたものを  
いつの日か私に運ばせて下さい。

7. コラール

幸いなるかな、慈悲の心から  
他人の苦悩を自分のことのように受け入れ  
貧しい人に思いやりをもち  
彼らのために神に誠実に祈る人々は。  
言葉をもって  
あるいはもしかすると行いによって助けを行う人は  
同様にまた救いを受け取り、  
また、慈悲を得るであろう。

D.デーニケ 1648 年

## 盛岡バッハ・カンタータ・フェラインの歴史

1977年に結成以来「J. S. バッハの教会カンタータの研究と演奏を通して音楽芸術を追求する」ことを目的として、25年間活動を続けてきました。主な演奏会の経過は以下のとおりです。

1977年	2月27日	「カンタータを歌う会」として発足		
	6月28日	「盛岡バッハ・カンタータ・フェライン」に改称		
1978年	2月26日	「バッハコンツェルト」	カンタータ 45 番、147 番	指揮：小林道夫 (芸大と共演)
1979年	10月6日	「BACH ABEND」	カンタータ 158 番、 131 番	指揮：小林道夫
1980年	2月27日	「バッハの夕べ」	カンタータ 80 番	指揮：小林道夫 (芸大と共演)
	12月22日	この年より「チャリティー・コンサート」を、盛岡市内のバロック音楽愛好家グループと共催(～1997年)		
1981年	7月4日	「BACH ABEND」	カンタータ 195 番、 182 番	指揮：小林道夫
1982年	11月22日	「バッハの夕べ」	カンタータ 158 番、4 番	指揮：佐々木正利
1985年	3月16日 17日	J. S. バッハ生誕 300 年記念演奏会 「ヨハネ受難曲」	ヨハネ受難曲	指揮：佐々木正利 (仙台宗教音楽合唱団と合同演奏)
	11月3日	仙台北教会宗教音楽の夕べ「メサイア」	メサイア (G. F. ヘンデル)	指揮：佐々木正利
	11月29日	G. F. ヘンデル生誕 300 年記念演奏会 「メサイア」	メサイア (G. F. ヘンデル)	指揮：佐々木正利
1986年	4月11日	「宗教音楽の夕べ」	ドイツ・レクイエム (H. シュッツ) ほか	指揮：佐々木正利
	4月 ～ 5月	第1回ドイツ演奏旅行	ドイツ・レクイエム (H. シュッツ) ほか	指揮：佐々木正利
	7月11日	「東京ソリストン演奏会」共演	スターバト・マーテル (ペルゴレージ)	指揮：赤松 安
1987年	3月28日	創立 10 周年記念演奏会「カンタータの夕べ」	カンタータ 34 番、70 番、 102 番ほか	指揮：佐々木正利
	11月27日	ムシカ・デラルテ・トウキョウ演奏会 「バロック音楽の夕べ」(主催)		
1988年	3月12日 13日	仙台宗教音楽合唱団との合同演奏会 「ミサ曲口短調」	ミサ曲口短調	指揮：佐々木正利
	9月17日	「今仲幸雄バリトトリサイタル」(主催)		
	11月17日	「ミヒャエル・ショッパーバリトトリサイタル」(主催)		
1989年	4月24日	「二重合唱の夕べ」	モテット 2 番、5 番 (J. S. バッハ) ほか	指揮：佐々木正利
1990年	3月10日 11日	盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、 仙台宗教音楽合唱団合同演奏会	クリスマス・オラトリオ4～6部 ミサ曲へ長調 (J. S. バッハ)	指揮：佐々木正利
	10月1日	「アグネス・ギーベル 佐々木正利 ジョイントリサイタル」(主催)		
	12月 ～翌 1月	第2回ドイツ演奏旅行	クリスマス・オラトリオ ほか	指揮：佐々木正利
1991年	3月10日	ドイツ演奏旅行帰国演奏会	クリスマス・オラトリオ ほか	指揮：佐々木正利
	10月14日 18日	「カンタータ第140番、コーヒーカンタータ」	カンタータ 140 番、 コーヒーカンタータ	指揮：H. ヴィンシャーマン (ドイツ・バッハソ リステンと共演)
1992年	3月21日	「バッハとメンデルスゾーン の カンタータの夕べ」	カンタータ 93 番ほか	指揮：佐々木正利
1993年	10月20日 24日 29日	「マタイ受難曲」(盛岡、仙台、岡山、東京)	マタイ受難曲 (J. S. バッハ)	指揮：H. ヴィンシャーマン (ドイツ・バッハソ リステンと共演)

1994年	7月 25日	「カンタータ 147 番」 仙台バッハアカデミーにおいて	カンタータ 147 番	指揮：佐々木正利（仙台 フィル・バッハアン サンブルと共演）
	12月 18日	弘前市民クリスマス： G. F. ヘンデル「メサイア」演奏会に出演	メサイア (G. F. ヘンデル)	指揮：佐々木正利
1995年	4月 末 ～ 5月	第3回ドイツ演奏旅行	天地創造 (J. ハイドン) ほか	指揮：ヨセフ・ツィルヒ 佐々木正利
	8月 26日	一関・東日本合唱祭参加	モテット 6 番ほか	指揮：佐々木正利
	9月 26日	鶴持清之・トリオフィオーレ「モーツァルト室内楽の夕べ」(主催)		
	10月 8日	青山町教会チャペルコンサート	天地創造抜粋 (J. ハイドン) ほか	指揮：小原一穂
	11月 22日 23日	「天地創造」(盛岡、仙台) オーケストラ・アンサンブル金沢と共演	天地創造 (J. ハイドン)	指揮：岩城宏之
1996年	3月 15日	「バッハの夕べ」演奏会	カンタータ 21, 131 番 モテット 4 番	指揮：佐々木正利
1997年	4月 13日	20周年記念演奏会	「昇天祭オラトリオ」 「マニフィカト」ほか (J. S. バッハ)	指揮：H. J. ロッチュ 佐々木正利
1998年	11月 20日	「ヴィンシャーマンの口短調ミサ」演奏会 盛岡コーロ・デラ・パーチェと共演	ミサ曲口短調 (J. S. バッハ)	指揮：H. ヴィンシャーマン (ドイツ・バッハゾ リステンと共演)
	12月 12日	「盛岡いのちの電話」 チャリティーコンサート	カンタータ 151 番, 191 番 讚美歌数曲	指揮：佐々木幹雄
1999年	4月 20日	シュッツのダビデ詩篇と バッハ、メンデルスゾーンのモテットの夕べ	ダビデ詩篇曲 3 曲 モテット 3 番(J. S. バッハ) モテット 3 曲メンデルスゾーン	指揮：佐々木正利
	11月 11日 12日	第4回ドイツ演奏旅行 ケンペン・プロプスタイ教会 ボン・ベートーヴェンホール	ミサ曲口短調 (J. S. バッハ)	指揮：H. ヴィンシャーマン (ドイツ・バッハゾ リステンと共演)
	11月 14日	インゲルハイム・ザール教会	ダビデ詩篇曲 3 曲 モテット 3 番(J. S. バッハ) モテット 3 曲メンデルスゾーン	指揮：佐々木正利
	12月 22日	「盛岡いのちの電話」 チャリティーコンサート	モテット、三つの宗教的 な歌ほか (メンデルスゾーン) オルゲルビューヒライン (J. S. バッハ)	指揮：佐々木正利
2000年	11月 23日	クリスマス・オラトリオ全曲演奏会	クリスマス・オラトリオ (J. S. バッハ)	指揮：H. ヴィンシャーマン (ドイツ・バッハゾ リステンと共演)
2001年	3月 13日	「盛岡いのちの電話」開局 10 周年記念 チャリティーコンサート	十字架上のイエス・キリス トの七つの言葉 (シュッツ) ほか	指揮：佐々木正利
	8月 11日 12日	岡山バッハカンタータ協会主催ドイツ演奏 旅行に有志(24人)同行参加 ライブツィヒ・聖トーマス教会聖歌隊席 クヴェトリンブルグ・シュティフツ教会	カンタータ 39 番, 102 番, 158 番, モテット 6 番 (J. S. バッハ)	指揮：D. ティム (ライブツィヒ・ バロック・オーケ ストラと共演)
	10月 16日	クルト・マズア指揮ロンドンフィル ベートーヴェン「第九交響曲」演奏会	交響曲第9番「合唱」 (ベートーヴェン)	在京のバイオニア合唱 団と共演

なおこのほかにも、クリスマス・チャリティー・コンサート、チャペル・コンサート、合唱祭、新春コーラスコンサートなどに参加、出演しています。

# 合唱団出演者

## 【ソプラノ】 36

浅沼 友絵	浅沼 寛子	阿部友紀子	石岡 裕子	大石 敦子
大川 敦子	小笠原香澄	小澤めぐみ	尾友 佳子	小野寺貴子
加藤 真香	菊池 節子	熊谷 充代	斉藤 純子	佐藤 千砂
鹿内 夏子	菅原 亜希	高橋 聡子	高橋菜穂子	竹森美映子
玉山 奈々	田村いずみ ●	丹野 貞子	豊岡 真実	軒 多賀子
桧森 綾子	平野 泰子	福田 温子 ○	藤崎 美苗	藤澤 智子
細田 彩子	三原 佳織	宮古 朋枝	矢幅 嘉子	横内 愛理 ●
渡辺真理子				

## 【アルト】 32

伊藤 三恵	扇田 暁子	小川 暁美 ○	小川 暁子	小田島千恵 ●
小野寺洋子	金子 千鶴	兼田紀美子	菊池 敏子	菊池 葉子 ●
桐原 絹子	工藤 由紀	児玉 尚美	今野 早苗	佐々木美智子
佐藤 公	佐藤 恵	鈴木栄見子	鈴木 英美	高橋 孝子
武田 敏恵	丹野 まり	千田加代子	早川芙美子	原 穂波
平井 良子	廣瀬利津子	福田 祐子	茂木 容子	守口由美子
谷地敏晶子	渡辺しをり			

## 【テノール】 23

伊藤 勝元	及川 豊	太田 穎則	大森 元希	小川 隆弘
小山内 薫 ○	鏡 貴之	加藤 進也	加藤 照道	金野 達徳 ●
斉藤 健	嵯峨 文裕	佐々木和義	佐々木幹雄 ◎	佐藤 修
柴田 幸吉	高橋 真哉	徳山 欣也	中川 喜之	三原 正敏
目黒 賢哉	吉村 哲	渡邊 伸作		

## 【バス】 16

赤塚 貴史	東 勝	小原 一穂 ◎	小原 竜太	佐々木直樹
佐藤 浩紀	下田 潤	武田 宏之	田沢 隆	芳賀 郁夫 ●
藤村 誠毅	戸来 百樹	大和 敏憲	横山 泉 ○	吉田 俊彦
渡辺 信之				

◎印： コンサートマスター  
 ○印： パートリーダー  
 ●印： サブ・パートリーダー

## 次回演奏会の予定

～ 25周年記念演奏会 第2弾!! ～

ライプツィヒ・バロックオーケストラと共に

2002年10月4日(金)

盛岡市民文化ホール・大ホール

指 揮 : デヴィッド・ティム

管 弦 楽 : ライプツィヒ・バロックオーケストラ

合 唱 : 盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

### 【 曲 目 】

ヴィヴァルディ / グローリア 二長調 RV.589

Antonio Vivaldi / Gloria in D RV 589

J.S.バッハ / カンタータ第45番「人よ、汝によきこと告げられたり」 BWV45

J.S.Bach / Kantate Nr.45 Es ist dir gesagt, Mensch, was gut is BWV45

J.S.バッハ / ブランデンブルク協奏曲(予定) 他

J.S.Bach / Brandenburgische Konzert

主 催 : 盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

お問合せ : 019-665-1614 (渡辺 信之)

## ♪ 団員募集中 ♪

盛岡バッハ・カンタータ・フェラインでは団員を募集しています。合唱が好きな方ならば、年齢、経験を問わず歓迎します。まず、練習をのぞいて見て下さい。

練習日時：毎週火曜日午後6時半～9時まで、毎月1回日曜日午後1時半～5時まで

練習場所：盛岡市内丸教会（盛岡中央郵便局から与ノ字橋方向へ、1つ目の信号手前右側角）

お問合せ：TEL：019-665-1614（渡辺信之） E-mail：mail@mbkv.jp

### ◆ 25周年記念演奏会スタッフ ◆

統括	渡辺 信之
渉外	茂木 容子
チケット	茂木 容子 鹿内 夏子
チラシ・ポスターデザイン	田沢 隆 茂木 容子
プログラム編集	渡辺 信之
ステマネ	田沢 隆
P R	赤塚 貴史 中川 喜之
会計	小川 暎子 斉藤 健
庶務	廣瀬利津子 加藤 照道
印刷	三澤印刷
写真	田代 晃
録音	I B C 開発センター
旅行手配	日通旅行盛岡支店
宿泊協力	ホテルメトロポリタン盛岡

圧倒的スケールと最高の雪質そして完璧なグルーミング

2002 APPI information

東北最大級のトリック系アイテムゾーン

「APPIスノーパークGCWorld」オープン

ファン待望の「5時間券」を新設定

並ばず・待たずにゲレンデ直行。レンタル予約システム

「クイックレンタル」登場

安比高原

〒028-7595 岩手県二戸郡安代町安比高原 TEL0195-73-5111(代)

はたち  
二十歳になって

# RICH から RUIZ へ。

「ホテルリッチホテル」は、皆様のおかげで開業20周年を迎えることとなりました。それに伴い1月1日よりホテルの名称が **ホテル ルイズ** と変わりました。

新たなホテル ルイズにご期待を

さらにお披露、大切にしたいブライダルシーン

## 10th Anniversary Bridal Fair Vol.1

ルイズ色の春



2002. 1. 14 (祝)  
AM10:00-PM4:00

- 婚約披露ご試食会  
[PM12:00〜予約が必要となります。]
- スカイチャペルウェディング体験コーナー
- ウェディングドレス試着コーナー
- テーブルコーディネート展示

**ホテル ルイズ**

TEL 019-625-2611 FAX 019-625-2673  
〒020-0034 盛岡市盛岡駅前通7-15



〒020-0827 盛岡市鉾屋町15-17

有限会社 **三澤印刷**

TEL 019-622-9089 FAX 019-622-9089

## だいびゅうおさあ〜沖縄

3月31日ラストフライト

# 沖縄応援・さよなら沖縄便ツアー



### フリータイムプラン

スケジュール(1班、2班共通、3班は帰路便が伊丹空港経由となります。)

目次	月(日)	時間	交通手段	予 定	食 事
①	3/17 (日)	09:00	各自	各自、花巻空港に集合。	朝:×
	3/19 (火)	10:15 13:35	JAS-479	日本エアシステムにて空路、那覇空港へ。 ※朝食は機内にてお弁当をご用意します。着後、手荷物を受け取り、那覇市内のお泊りのホテルへ。 ※空港からホテルまでは各自ご負担となります。 (所要時間はタクシーにて15分) ※18時30分からの歓迎レセプションまでにはホテルへのチェック・インをお済ませください。	昼:○
	3/31 (日)	18:30		夕食はホテルにて(歓迎レセプション) (那覇泊)	夕:○
	3/18 (月)	終日		ホテルにて朝食をお済ませいただき、終日、フリータイムにて沖縄をご満喫ください。	朝:○
②	3/20 (水)			オプションツアーをご用意いたします。 ①ステキー&ロブスター(送迎付) ②伊勢海老料理(送迎付) ③琉球料理(送迎付) (那覇泊)	昼:×
	4/1 (月)				夕:×
③	3/19 (火)			ホテルにて朝食をお済ませいただき、那覇空港集合までフリータイム! ※那覇空港には各自ご集合いただきます。 沖縄唯一の繁華街、国際通りや那覇市民の台所、公設市場の見学で楽しいひと時をお過ごし下さい。 オプションツアー ④沖縄南部(戦跡めぐり)観光(昼食付) 那覇空港集合!	朝:○
	3/21 (木)	13:30	各自	日本エアシステムにて空路、花巻へ。	昼:×
	4/2 (火)	14:35	JAS-478	4/2のみ那覇空港→伊丹空港→花巻空港 JAS716/635便 14:15/16:05 16:50/18:10 無事到着(解散)	夕:×
		17:15			

※発着時間、交通機関は変更となる場合がございます。利用航空会社:日本エアシステム(JAS) 詳しくはパンフレットをご覧ください。

### 出発日・旅行代金

① 3月17日(日)~3月19日(火) **52,800円**

② 3月19日(火)~3月21日(木) **52,800円**

③ 3月31日(日)~4月2日(火) **49,800円**

(復路は伊丹空港経由で花巻空港へ帰ります。)

各班 40名募集 最少催行人員25名

ホテル: ホテルサン沖縄  
(4名一室利用)

食事: 2朝食1昼食1夕食  
添乗員: 同行します

お問い合わせ・お申込みは...

■旅行主催

**日通旅行** (日本通運(株) 盛岡旅行支店)

国土交通大臣登録旅行業第19号/日本旅行業協会会員  
一般旅行業取扱主任者 本間 俊

盛岡市中央通2-11-17

担当: 川村・斎藤

**019-653-3166**

